

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成24年11月30日(金)

16時～17時

ところ 農学部 DS304 講義室

題目 「イチゴ属二倍体種を用いた十倍体雑種イチゴの育種
～最近の状況と香川大学での取り組み～」

講師 農学部教授 柳 智博 博士

概略

イチゴ (*Fragaria × ananassa* Duch) は、今から約250年前、ヨーロッパで八倍体種間における雑種として誕生した。その後、明治初期に日本にも導入され、盛んに品種改良が行われてきた。しかし、昨今では限られた優良品種間の交雑による育種が主流となり、育種素材の変異の幅が狭くなり、結局類似した特性を持った新品種が次々と育成される状況になってきている。そこで、最近野生のイチゴを利用した新品種の育成が試みられている。本発表では、日本におけるイチゴ育種の問題点、野生種を利用した品種改良の現状、さらに香川大学農学部での取り組みについて解説する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)